



酸性雨は、わたしたちの体に、どんな影響があるの

酸性雨で「目が痛くなる」

酸性雨は、植物や建物などに、大きな被害をあたえるばかりでなく、人間の生活にも、大きな被害をあたえています。

その一つは、酸性雨によって「目が痛くなる」ことです。

このできごとは、1974年の7月に、東京都、神奈川県、千葉県などで起こり、初めて、酸性雨が人の体にも被害をあたえる、ということが確かめられ、酸性雨ということばが、このときから使われるようになりました。

もう一つは、着ているものへの被害で、「雨にあたらたら色が変わった」とか、「下に着ているものに、色がうつった」などというものが、多いようです。

酸性雨ができるのは

酸性雨は大昔から降っていました。火山の噴火や森林の火災、空気中の二酸化炭素によってできた、弱い酸性の雨です。

最近、問題になっているのは、人間の活動が原因になって降る、酸性の強い酸性雨です。工場や発電所などでは、大量の石油や石炭を使いますし、自動車は石油からつくったガソリンで走ります。石油や石炭などの化石燃料が燃えると、有害なガスが発生し、大気をよごします。これが、雨にふくまれて降るのが酸性雨です。（監修・保志 宏）

